

良い借金、悪い借金。

金額だけでは判断できないわけ



行田市議会議員 永沼 宏之

夕張市の財政破綻以来、地方自治体の借金が注目されています。センセーショナルな取り上げ方がされたせいでしょう。なかには借金がすべて悪であると考えてしまふ人もいますよ。ごっす。

政府部門が借金をするわけ

国や地方自治体（マクロ経済学でいう政府部門）が借金をする大きな理由は、経済を安定的に成長させるためです。不況のときには、減税をしたり、政府部門が借金をしてその力ネで公共投資を行うことで景気を良くしようとしています。逆に景気が過熱しているときは、増税をしたり公共投資を減らしたりして、景気を冷やしインフレなどを防ぎます。ですから景気拡大期にある現在は、不況期に積みあがった借金がどうしても多くなっている時期であり、これからその借金額を減少させる時期ということになります。

次に仕組みの面からも注意すべきことがあります。

地方自治体の借金のなかには、国の政策（例えば減税の財源）として、なかば強制的に借金をさせられてしまうものもあります。これは減税補てん債などといわれます（行田市の現在高は約94億）。この借金は、その全額が交付税措置のある（後年度に国から地方交付税として全額がもらえる）ものな

ので、私たちが考える一般的な借金とはイメージの違うものです。このように地方自治体の借金といっても、その額の3割から7割程度が国からもらえることが確定しているものも多いため、実質的に返済しなければならぬ負担額は、名目額を大きく下回っているのです。表面的な借金額だけを取り出して、ことさら騒ぎ立てることは、危機感をいたすらに煽るだけで、正確性を欠いているともいえるのです。

それでは良い借金と悪い借金をどのように見分けられるのでしょうか。

借金をすることのメリット

借金をすることのメリットは、借金をして建設した資産（ハコモノ）から得られる便益が長期間にわたるとき、その費用負担をそのハコモノの利用期間に対応させることが出来ることです。手持ちの力ネがないからといって力ネが貯まるまでマイホー

ムが建てられないより、とりあえず借金をしておいてマイホームを建て、そのマイホームを利用しながら借金の返済を進めることのほうが、メリットが多いことを考えれば理解しやすいと思います。何十年にもわたり利用する資産（ハコモノ）を、借金せずに手持ち現金だけで建設したのであれば、本来は後の世代が負担すべき費用のぶんまで現在の世代が負担することになってしまい、明らかに不

行田市の主なハコモノ大規模事業（平成以降）

(概算)

市長名	完成年度	事業名	事業費	返済状況
中川直木(8期目)	平成2年	地域文化センター(真名板)	2億円	返済中
山口治郎(1期目)	平成5年	佐間公民館(佐間)	6億円	返済中
	平成6年	学校給食センター「ひまわり」(樋上)	10億円	返済中
山口治郎(2期目)	平成7年	総合体育館「グリーンアリーナ」(和田)	47億円	返済中
	平成9年	長野工業団地分譲(長野)	26億円	返済中
	平成10年	総合福祉会館「やすらぎの里」(酒巻)	26億円	返済中
山口治郎(3期目)	平成12年	古代連会館(小針)	16億円	返済中
	平成12年	ものづくり大学誘致補助金(前谷)	24億円	—
	平成15年	教育文化センター「みらい」(佐間)	31億円	返済中
横田昭夫(現職)	平成18年	男女共同参画推進センター「VIVAぎょうだ」(佐間)	3億円	返済開始

※ものづくり大学誘致補助金事業は基金(市の貯金)を取り崩して対応。それ以外はどれも市債発行を伴う。
 ※長野工業団地事業は分譲開始以降も街路整備費などに15億以上かけている。

永沼 ひろゆき

昭和43年7月7日生まれ。38歳。
 行田市行田(下町地区)にて薬剤師の両親が薬局を営む姿を見て育つ。
 行田市立中央小学校、行田中学校を卒業。
 早稲田大学本庄高等学院を経て、早稲田大学政治経済学部を卒業。在学中より家業を手伝う。
 平成15年の統一地方選挙にて行田市議会議員に初当選。
 PHP総合研究所(故松下幸之助氏創設)親学研究会委員として平成18年12月と平成19年1月に著書(共著)を出版。親学推進協会理事。

公平です。問題はその資産(ハコモノ)から得られる長期間にわたる便益が、その返済額より多いか少ないかなのです。

行田市のハコモノ投資

左上の表は、平成以降の行田市の主なハコモノ大規模事業をまとめたものです。こうして見ると、どの時期に大型投資が行なわれたかが一目瞭然です。それぞれのハコモノからの便益は人によりそれぞれ異なるでしょうから、表を見て、あなたが現実に見ている便益とそのハコモノの事業額とを比べてみてください。

一つだけ確かなことは、過去の世代がつくった悪い借金といえども、現在と将来の世代がそれを負担せざるを得ないという点です。